

- ① サブルーチン名は、SUBROUTINE文の中に書かれるのを除いて、その副プログラム内に現れてはならない。
- ② 仮引数として書かれた名前は、サブルーチン副プログラム内のEQUIVALENCE文、COMMON文又はDATA文の中に現れてはならない。
- ③ サブルーチン副プログラムは、結果を持ち帰らせるために、その引数のうち幾つかを定義したり再定義したりしてもよい。
- ④ サブルーチン副プログラムは、BLOCK DATA文、FUNCTION文、他のSUBROUTINE文又は、定義しているサブルーチンを直接に、若しくは間接に引用する文を含んではならない。
- ⑤ サブルーチン副プログラムは、少くとも一つのRETURN文を含まなければならない。
- ⑥ サブルーチン副プログラムの仮引数は、ない場合もある。(COMMON文使用の場合)
- ⑦ 仮引数として添字つき変数を指定してはならない。
- ⑧ 仮引数が配列名のときは、その副プログラム内で配列宣言をしなければならない。
- ⑨ サブルーチン名それ自身は値をとらないので、サブルーチン副プログラムに型はない。
- ⑩ 実引数として次のいずれかを書くことができる。
  - ア 文字型定数を含むすべての定数
  - イ 変数名
  - ウ 配列要素名
  - エ 配列名
  - オ その他の式(算術式、論理式)
  - カ 外部手続き名(基本外部関数名、関数副プログラム名、サブルーチン副プログラム名)
 なお、外部手続き名を実引数として使用した場合は、対応する仮引数も外部手続き名でなければならない。その名前は、その引用を含むプログラム単位内のEXTERNAL文に書かなければならない。
- ⑪ 仮引数が配列名の場合には、対応する実引数は配列名か配列要素名でなければならない。

[例1]

配列Xの要素の中で最大のものをMAXX, 最小のものをMINXに求めるサブルーチン副プログラムの定義と引用

```

DIMENSION A(100)
REAL MAX, MIN
.....
CALL SUB(A, MAX, MIN) ..... 実引数は変数名
.....                          及び配列名
STOP
END

```

} サブルーチン副プログラム  
を引用するプログラム